

4. 砂防・地すべり対策事業の概要

○天竜川の砂防事業の沿革

天竜川流域は、中央構造線をはじめとする多くの断層が走り、破碎・変成作用を受けた脆弱な地質構造と急峻な地形により膨大な土砂を生産するため、古来より幾多の土砂災害を起こしてきた。そのため、流出土砂対策の重要性が認識されている。

天竜川水系の直轄砂防事業は、昭和12年に小渋川に内務省名古屋土木出張所小渋川砂防工場が設置されたことにより始まり、その後、三峰川流域や片桐松川流域、太田切川流域、中田切川流域、与田切川流域、新宮川流域、山室川流域、藤沢川流域、遠山川流域が加えられ、現在の直轄砂防区域は1,332km²となっている。

天竜川流域の地域の安全・安心な社会を守るため、砂防えん堤の建設や地すべり対策などの施設整備を着実に進めている。

○天竜川の砂防区域

河川名	水系着手年度	流域面積 (km ²)	河川延長 (km)	流域内市町村名
小渋川	昭和12年	295.0	31.8	大鹿村、中川村、松川町
三峰川	昭和26年	348.4	60.4	伊那市
片桐松川	昭和34年	28.4	12.9	松川町、飯島町
藤沢川	昭和37年	74.0	19.8	伊那市
山室川	昭和37年	59.0	17.9	伊那市
与田切川	昭和37年	42.7	15.9	飯島町
中田切川	昭和37年	22.5	14.0	駒ヶ根市、飯島町
太田切川	昭和37年	61.5	15.6	駒ヶ根市、宮田村
新宮川	昭和37年	58.0	12.9	駒ヶ根市
遠山川	昭和52年	342.5	39.3	飯田市、天龍村
合計		1,332.0	240.5	3市2町4村

○天竜川の地すべり地区

地すべり地区名	着手年度	面積 (ha)	所在地
入谷	昭和63年	138.0	長野県下伊那郡大鹿村入谷
此田	昭和63年	88.0	長野県飯田市南信濃此田